

北見市における景気動向調査報告書

< 第 II 四半期 >

北見商工会議所

I. 調査要領

1. 調査時点及び調査対象期間

(1) 調査時点 平成19年10月3日

(2) 調査対象期間 平成19年7月～9月期実績および平成19年10月～12月期見通しについて調査した。

2. 調査対象

北見市に所在する企業を対象に、製造業、建設業、卸売業、小売業、サービス業の5業種150社を往復ハガキにより調査した。

3. 回収状況

業種 \ 企業数	対象企業数	回答企業数	回答率
製造業	30社	24社	80.0%
建設業	30社	27社	90.0%
卸売業	30社	26社	86.7%
小売業	35社	22社	62.9%
サービス業	25社	17社	68.0%
合計	150社	116社	77.3%

注) 本調査結果の中で、D・I値とある記号は、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)で好転企業割合から悪化企業割合を差し引いた値を示す

Ⅱ．概 況

《 全 体 の 動 き 》

平成19年度第Ⅱ四半期<7月～9月>の北見市における業況は、前年比で「好転企業」13.8、「悪化企業」53.4、「好転」から「悪化」を差し引いたD・I値は△39.6となっており、前年同期比(△35.2)との比較では4.4ポイントと悪化しており、前期に引き続き悪化傾向を示しております。また、前期調査<19年度第Ⅰ四半期>と比較してみると前回△33.7→今回△39.6と5.9ポイント悪化、こちらも引き続き悪化傾向を示しています。

今回の業況を業種別で見ると、製造業D・I値△37.4、建設業D・I値△51.9、卸売業D・I値△11.5、小売業D・I値△54.6、サービス業D・I値△47.0と全業種マイナスを示しているものの、前年同期調査と比較すると卸売業で29.3、サービス業で5.9ポイントの改善が見られ、製造業は10.1、建設業は22.7、小売業は24.6ポイントの悪化傾向を示しており、業種によりバラつきはあるものの全体的には悪化傾向を示しています。

また、来期の見通しを全業種で見ると「好転企業」10.3%「悪化企業」53.5%でD・I値△43.2と、前年同期見通し(△26.6)に比べ16.6ポイントと前期に引き続き悪化しており、厳しい来期見通しとなっています。

《 業 種 別 の 動 き 》

1) 製 造 業

生 産 高

前年比で「増加企業」12.5%、「減少企業」41.7%、D・I値△29.2と前年同期に比べ6.5ポイントの悪化、前期調査との比較では16.2ポイント大幅に悪化しており、3期ぶりに悪化傾向を示しています。

採 算

前年比で「好転企業」8.3%、「悪化企業」54.2%、D・I値△45.9と前年同期に比べ12.5ポイントの悪化、前期調査との比較では15.5ポイントの悪化を示し、生産高同様3期ぶりに悪化傾向となっています。

来期見通し

業況D・I値△37.5、生産高D・I値△37.6、資金繰りD・I値△50.1と、前年同期に比べ全てのD・I値が大幅な悪化傾向を示しています。特に、資金繰りD・I値22.9、生産高D・I値は28.5ポイントと高い数値を示し、5期ぶりの厳しい見通しとなっています。

2) 建 設 業

完 成 工 事 高

前年比で「増加企業」11.1%、「減少企業」63.0%、D・I値△51.9と前年同期に比べ22.7ポイントの大幅な悪化傾向、前期調査との比較でも37.1ポイントの大幅な悪化傾向を示しており、3期ぶりの悪化状況となっています。

採 算

前年比で「好転企業」0.0%、「悪化企業」66.7% D・I値△66.7と前年同期に比べて12.5ポイントの悪化傾向、前期調査との比較でも37.2ポイントの大幅な悪化傾向を示しており、再び大変厳しい状況になっています。

来期見通し

業況D・I値△70.4、完成工事高D・I値△70.4、資金繰りD・I値△51.9と、前年同期と比べすべて悪化傾向を示しています。特に業況D・I値は20.5ポイント、完成工事高D・I値は28.7と高い数値を示し、先の見えない大変厳しい見通しとなっています。

3) 卸売業

売上高

前年比で「増加企業」46.2%、「減少企業」26.9%、D・I値19.3とプラス値となり、前年同期と比べ32.9ポイントの大幅な改善傾向を示しています。また、前期調査との比較でも23.4ポイントの大幅な改善傾向を示しており、前期に続きさらに大幅な回復傾向となっています。

採算

前年比で「好転企業」8.0%、「悪化企業」28.0%、D・I値△20.0と前年同期に比べ2.8ポイントの改善傾向を示しています。また、前期調査との比較では5.1ポイントの改善傾向を示しており、前期に続き明るい兆しが見える状況となっています。

来期見通し

業況D・I値△11.6、売上高D・I値△3.8、資金繰りD・I値△3.9と前年同期に比べ僅かずつではあるが全てのD・I値が好転傾向を示し、引き続き明るさの見える来期見通しとなっています。

4) 小売業

売上高

前年比で「増加企業」9.1%「減少企業」68.2%、D・I値△59.1と前年同期に比べ19.1ポイントと大幅な悪化傾向を示しています。前期調査との比較でも9.2ポイントの悪化傾向を示しており、引き続き厳しい状況となっています。

採算

前年比で「好転企業」18.2%「悪化企業」68.2%、D・I値△50.0と前年同期に比べ12.0ポイントの悪化、前期調査との比較では4.2ポイントの好転傾向を示しておりますが、数値は高く予断を許さない経済環境となっています。

来期見通し

業況D・I値△36.4、売上高D・I値△31.8、資金繰りD・I値△31.8と前年同期と比べ、全てのD・I値が20ポイント以上の大幅な悪化傾向を示しています。特に業況D・I値が26.4と高い数値となっており、再び厳しさの見える来期見通しとなっています。

5) サービス業

売上高

前年比で「増加企業」5.9%、「減少企業」64.7%、D・I値△58.8と前年同期に比べ5.9ポイントと悪化傾向、前期調査との比較でも8.9ポイントの悪化傾向を示しており、厳しい経済環境となっています。

採算

前年比で「好転企業」12.4%、「悪化企業」56.3%、D・I値△43.9と前年同期に比べ26.7ポイントの大幅な改善傾向、前期調査との比較でも17.1ポイントと大幅な改善傾向を示しているものの、まだ数値も高く厳しい経済環境となっています。

来期見通し

業況D・I値△64.6、売上高D・I値△58.7、資金繰りD・I値△56.1と前年同期に比べすべてが悪化傾向、特に業況D・I値は29.2と大幅な悪化傾向を示しており、先の見えない厳しい来期見通しとなっています。

業 種 別 経 営 上 の 問 題 点

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
製 造 業	諸 経 費 増	同業者間の競合	得 意 先 減 少	人 材 不 足	そ の 他
建 設 業	同業者間の競合	得 意 先 減 少	諸 経 費 増	人 材 不 足	人 件 費 増
卸 売 業	同業者間の競合	諸 経 費 増	得 意 先 減 少	人 材 不 足	人 件 費 増
小 売 業	得 意 先 減 少	同業者間の競合	諸 経 費 増	人 件 費 増	売 掛 金 回 収 難
サービ業	同業者間の競合	諸 経 費 増	得 意 先 減 少	人 件 費 増	人 材 不 足
合 計	同業者間の競合	諸 経 費 増	得 意 先 減 少	人 材 不 足	人 件 費 増

※ 問題点は、各業種とも3つ選択。

○前年同期比

前年と比べて、卸売業の1位が「得意先減少」から「同業者間の競合」に変動している。

全体では、2位が「得意先減少」から「諸経費増」に変更している。数値では、1位の「同業者間の競合」が85社と他を引き離している。「諸経費増」の問題点は、前回に引き続き、石油高騰の影響と見受けられる。

製造業の5位「その他」には、受注減、販売価格下落、高速道路整備による市外客減少等があげられた。

※その他及び具体的な業界の問題点の記載事項

(製造) ○作製に対する評価の低下 (鉄工)

○設備投資困難 (印刷)

(建設) ○設備投資が無く物件減少 (板金)

(卸売) ○通販・ネット販売価格変動の影響 (車輛部品)

○原油等高騰の影響で仕入価格が期中に数回値上げの物もあり、販売価格に転化できない(肥料)

○燃料仕入価格の高騰。不当廉売 (石油)

(小売) ○水問題以後の料飲店の落ち込みの影響 (食料品店)

○きたみ東急閉店後の行く末により見通しがたたない (食料品)